

プログラムの概要

国際社会の諸問題を分野横断的に理解し、その解決に向けて実践的に行動することができる人材の育成をめざし、社会諸科学の基礎理論と分析方法を学ぶ。さらに、社会的事象は文化的事象と密接に関係していることから、人文諸学も履修対象とし、学際的・総合的なアプローチの方法を学べるようカリキュラムを編成している。

修了認定の基準 (ディプロマ・ポリシー)

所定の単位を修め、卒業研究において以下に掲げる学科の到達目標を達成したと評価された者に卒業を認定する。

- 知識・理解：国境を超えた社会の諸問題を分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、さらに自ら選択した専門的テーマに関して地域的または分野的に特化・深化した知識・認識を有する。
- 思考・判断：異なる時代・地域における社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。
- 技能・表現：講義・講演の聴講や専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。
- 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。

履修条件 (アドミッション・ポリシー)

- ・世界大の社会問題と地球社会の現在および将来について強い関心を持っている人
- ・様々な人々の存在に目を向け、共に学びあいながら、共に生きていく社会について考えたいと思っている人
- ・多様な外国語や情報発信のスキルを学び、世界の人々とコミュニケーションをとりたいと思っている人
- ・問題探求心・学修意欲に優れ、様々な問題や事象について論理的に考え、解決策を追求することに熱意があり、適性を持っている人

学修・教育目標を達成するためのカリキュラム方針 (カリキュラム・ポリシー)

基盤教育科目を重視しつつ、1, 2年次で学部・学科の基礎科目を集中的に履修することにより、基礎的かつ総合的な学力を涵養する。そのうえで、学生が自らの興味・関心にしがたって専門分野を選択し、専門外国語科目と学科選択科目、さらに3年次の演習・実験・実習科目の履修をへて、4年次での卒業研究へと、段階を追って専門的かつ実践的な学修を深めていけるよう、以下のような方針でカリキュラムを編成している。

1. 学部基礎科目 (1年次)：世界各地の社会・文化事象を、国家や国際機構、市民社会、そして人と人とのコミュニケーションという多層的な観点から考察するための総合的な理解力、基礎学力、情報処理能力を養う。
2. 学科基礎科目 (1, 2年次)：国境を超えた社会の諸問題を、国際法、国際政治、国際経済、国際社会の四分野から考察する学力を養う。
3. 専門外国語 (2, 3年次)：学術的かつ実用的な英語学修に加えて、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、タイ語、朝鮮語の6つの外国語を学修する機会を提供し、世界の各地域とその文化を現地の言語でより深く理解するための基礎学力を養う。
4. 学科選択科目 (2, 3年次)：世界諸地域の社会のあり方や、政治・経済・社会・法律・行政・歴史など社会諸科学の個別分野の事象をより深く学修しながら、専門的な知識と実証的かつ合理的な思考力を養う。
5. 演習・実験・実習 (3年次)：自らの興味・関心にしがたって専門分野の演習・実験・実習を3年次から選択し、その分野における専門性を深めるとともに、実地調査や専門文献の収集・読解・分析、主体的、批判的かつ論理的な思考や議論ができる力を養う。
6. 卒業研究 (4年次)：研究課題の設定から調査、分析、考察、結論へとという研究過程を自ら実践し、その結果を論文にまとめる作業を通じて、主体的に大学での学修の集大成をはかる。

国際社会学科 カリキュラムツリー

